

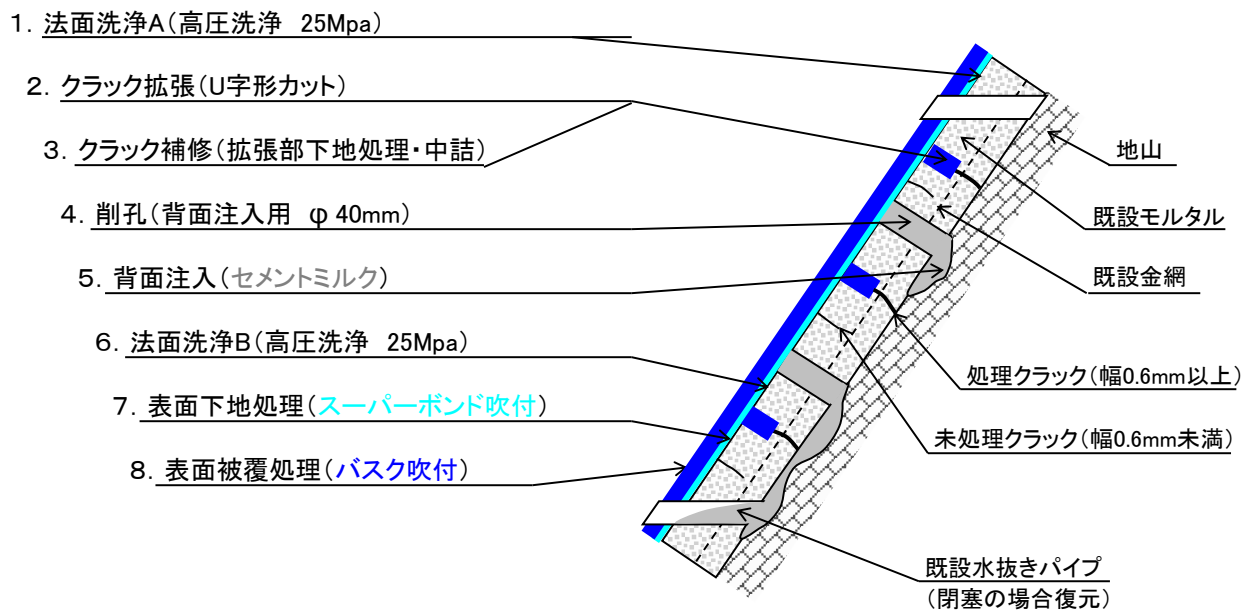
技術概要書（様式）

※別紙2

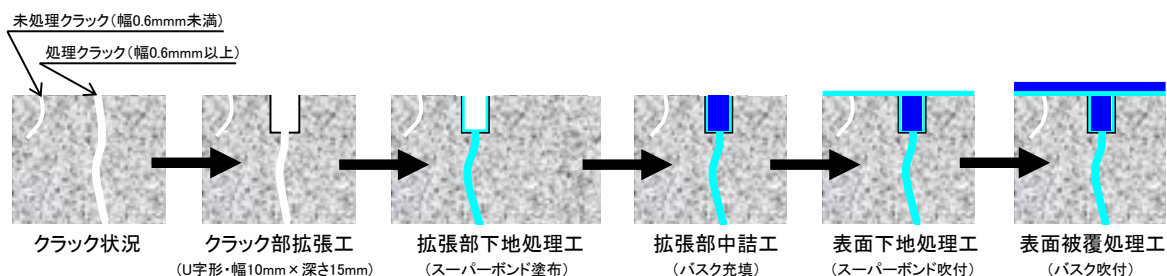
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）																							
技術名称	bask バスク工法	担当部署	事務局																					
NETIS登録番号	QS-110009-A	担当者	渡邊 賢																					
社名等	既設モルタル再生工法研究会	電話番号	093-632-8860																					
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 従来の老朽化したモルタル・コンクリート吹付け法面の補修技術は、劣化した既設のモルタル・コンクリート吹付けを人力及び機械により剥ぎ取り、既設吹付けと同じモルタル・コンクリートを地山に吹付けし直す工法がとられている。 問題点 ・剥ぎ取りによる産業廃棄物が発生する。 ・仮設防護柵の設置に伴い、車線規制が発生する。（規制による第三者、通行車両への影響や危険性が発生する） ・大型機械を使用するため、CO2排出量が多くなり、地球環境に与える負荷が大きい。 ・工種が多く、工期が長くなる。 ・吹付けプラントのヤード必要となる。 これらの諸問題を解決することが急務であった。 2. 技術の内容 本技術は、従来技術に対して吹付けモルタル・コンクリートを剥ぎ取らずに、ガラス短繊維補強樹脂セメントモルタル（バスク）の材料特性（伸縮性、密着性、接着力の高さ）を活かし、既設の老朽化したモルタル吹付け面上の亀裂補修、背面に空洞がある場合は、セメントミルクで空洞充填を施し、さらに既設モルタル吹付け面全体にバスクを被覆することによって、亀裂や表面剥離等の劣化進行を防止して、延命を図る補修・保護の再生工法である。 本工法で使用する材料（バスク）は、樹脂の高い密着性とセメントの強度を最大限に引き出し、ガラス短繊維の配合で結合力を高めることにより、薄い塗膜施工が可能となり、老朽化した既設モルタルに負荷を与えず、難透水性の効果が得られるため、長期的な再生効果が期待できる。 3. 技術の効果 ・既設モルタル吹付け面の大々的な剥ぎ取りを伴わないため、産業廃棄物の発生を大きく抑制することができる。 ・作業の安全性が高まると共に、第三者、通行車両への影響や危険性を軽減する。 ・工期の大幅な短縮と共に、工事費用の削減が図れる。 ・小型の機械を使用するため、CO2排出量の削減が図れる。 ・周辺環境に調和した色調のモルタル法面に再生することも可能である。 4. 技術の適用範囲 1.既設の老朽化したモルタル・コンクリート吹付法面（風化・剥離・亀裂発生防止） 2.石積み・擁壁及び砂防堰堤（風化・剥落・亀裂発生防止） 3.コンクリート構造物の表面（劣化・亀裂防止） 5. 活用実績 <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>2 件</td> <td>（九州</td> <td>1件</td> <td>、九州以外</td> <td>1件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>237 件</td> <td>（九州</td> <td>183件</td> <td>、九州以外</td> <td>54件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>14 件</td> <td>（九州</td> <td>10件</td> <td>、九州以外</td> <td>4件</td> <td>）</td> </tr> </table>			国の機関	2 件	（九州	1件	、九州以外	1件	）	自治体	237 件	（九州	183件	、九州以外	54件	）	民間	14 件	（九州	10件	、九州以外	4件	）
国の機関	2 件	（九州	1件	、九州以外	1件	）																		
自治体	237 件	（九州	183件	、九州以外	54件	）																		
民間	14 件	（九州	10件	、九州以外	4件	）																		

6. 写真・図・表

[標準断面図]



[クラック拡張部 断面図]



[施工事例]： 国道386号線

施工前



完成

